

2020年3月11日

厚生労働省社会・援護局  
障害保健福祉部障害福祉課  
障害児・発達障害者支援室長

本 後 健 殿

一般社団法人 全国児童発達支援協議会  
会 長 加 藤 正 仁

### 新型コロナウイルス関連 緊急調査(その1)の速報の情報提供

日ごろから一般社団法人全国児童発達支援協議会(CDS-Japan)の活動にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、今般CDS-Japanが、加盟事業所を通して全国の障害児通所支援事業に対して、新型コロナウイルス関連 緊急調査(その1)を実施いたしました。

子どもの最善の利益のために、現場の実態を厚生労働省に共有することが重要と考え、速報として情報提供致します。

なお、最終集約は3月16日(月)を予定しております。また、今回の緊急調査に続き、継続して残り3回の調査を予定しています。必要に応じて、情報提供させて頂く予定です。

#### 調査の概要

実施時期:2020年3月6日(金)から2020年3月11日(水)

実施方法:WEBによるアンケート調査、CDS-Japan加盟事業所への郵送での案内とHPでの告知

アンケート回収数:178件

#### 明らかになった現場での課題

##### <共通>

1. アルコール消毒液等衛生用品やマスクの不足が顕著である。
2. 厚生労働省の通知等は、現場まで届いている(9割超)。反面、自治体からの要請や調整はあまり行われておらず、現場は厚生労働省の通知等を頼りに業務をしている様子が伺える。

##### <放課後等デイサービス>

1. お子さんが事業所を休んでいる間、「きょうだい児で留守番」27.6%、「子どもが一人で留守番」(10.5%)と、家庭での安全を危惧するケースが一定数存在する。
2. 子どもの受入れ人数が、「通常よりも多くの子どもを受け入れている」が14.3%ある一方、「キャンセルによって減っている」が35.2%である。
3. 通常よりも長い時間受け入れている事業所が、36.2%ある。

##### <児童発達支援>

1. お子さんが事業所を休んでいる間、「きょうだい児で留守番」6.5%、「子どもが一人で留守番」(2.6%)と、家庭での安全を危惧するケースが一定数存在する。
2. 子どもの受入れ人数が、「通常体勢のまま」が62.3%、「通常よりも多くの子どもを受け入れている」が6.5%ある一方、「キャンセルによって減っている」が16.9%である。

今後とも、CDS-Japanとしては、現場の声として、リアルタイムに情報提供していきますので、厚生労働省においては子どもや家族が安全・安心して発達支援等が受けられるよう、今後とも連携・協議を重ねる機会を持っていただくようお願いします。

以上